

「習射行射の別」

(講習会に当り配布せるものなり、二高弓道部蔵)

一、習射

弓箭の正用は心身ともに自然の正用に非れば現じ難きが故に、自ら心身両箇の偏執の粘縛を解きつゝ、弓身一如となるの境即ち射たるの行境を現出するを習射と云ふなり。換言すれば心身ともに些の無理無く弓箭の正器と合し、弓身不二となり、引くに懸念なく発に意を留めず、存分に自己を●を得る即ち射悟自在の因を作すを云ふ。

一、行射

如上の習射によりて習得したる思量(有)、不思量(無)相等しく、有るが如く無きが如きの境、即ち常人の覚知する無念無想の境より自己本来の面目たる識覚次第に発露し来り、有無の平等を破らずして、有は有の實在、即ち一切を有に於て肯定せんとす。無は無の實在、即ち一切を無に於て肯定せんと欲して絶命一射に是を得んと死生交々越えて善行するも、有無は平等にして而も有無相存して相通じて一つならず。此の境に於て不惜身命千練万苦遂に虚実一如の無相を獲得するを行射といふ。

又更に進んで大用現前自在境を顕現するを真の行射と云ふなり。

以上の二別ありと雖も初心第一箭より如是なるを得れば一歩地より真の行射となると知るべし。